

NGN・SaaSで加速する ユニファイドコミュニケーション

平田 英之・今井 恵一
野口 誠・浅野 友彦

要 旨

品質保証や安心・安全を特長とするNGNは、ネットワークの大きな変革として企業システムの高機能・高付加価値化を促進します。また同時に、キャリアやサービス事業者のSaaSによるサービス提供は、これまで自社でのシステム開発・導入を伴った企業システムの提供形態を大きく変革することになります。

このようなNGN・SaaSの普及・浸透に後押しされ、NECのユニファイドコミュニケーションは、すべての現場に広がるユビキタスな企業システムを具現化していくこととなります。

キーワード

- ユニファイドコミュニケーション (Unified Communications)
- NGN
- SaaS
- ユビキタス
- リアルタイムコミュニケーション

1. はじめに

2008年3月に、NTTのNGN (Next Generation Network) 商用サービスが開始されました。第一弾はコンシューマ向けのものが中心ですが、今後のエリア展開とともに企業向けサービスも充実してくることが予想されます。一方、キャリアやサービス事業者によるSaaS (Software as a Service) は、新たな企業システムの提供形態として注目されています。品質保証や安心・安全を特長とするNGNの普及とともに、企業におけるSaaSの活用も拡大していくと予想されています。本稿では、NGNおよびSaaSの拡大がユニファイドコミュニケーション (Unified Communications : UC) に与えるインパクトを考察するとともに、NECの取り組みについて紹介します。

2. NGNが企業活動にもたらすインパクト

2.1 情報システムはすべての「現場」へ

企業ネットワークの整備と業務のIT化は、これまでオフィス中心に進められてきましたが、ブロードバンド&モバイルの進展、ICカードやRFIDなどの実用化により、企業活動のあらゆる「現場」へ拡大しています。NGNの登場はこれらの動きをさらに加速し、まさにユビキタス社会が現実のものになるうとしています (図1)。

NGN時代、情報システムは企業内からすべての「現場」へ

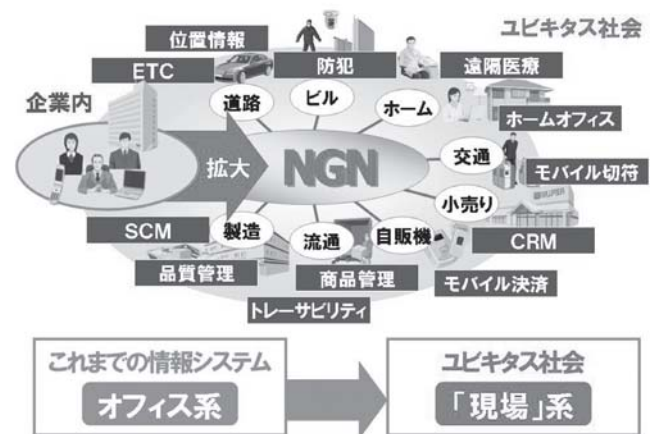


図1 NGNで「現場」へ広がる情報システム

2.2 企業システムにとってNGNとは?

NGNの最大の特長は、そのオンデマンド性にあります。必要なときに、必要な相手と、リアルタイムに、かつセキュアに通信することができます。さらに、NGNではサービスプラットフォームが整備され、アプリケーションとのインタフェースがオープン化されることにより、企業の基幹アプリケーションも、容易にリアルタイム通信を利用することが可能になります。

2.3 企業内のIT、ネットワーク融合と「企業NGN」

一方、企業の情報システム自身も進化を続けており、多くの企業では、ネットワークインフラの領域でNGNと同様に、IP技術による音声通信とデータ通信の統合が進んでいます。さらに、単にネットワークが1つになるだけでなく、これまで別々に提供されていた電話、電子メール、インスタントメッセージ(Instant Messaging:IM)などのコミュニケーション手段を統合し、通信相手のプレゼンス情報も管理することによって、それぞれの状況に応じて最適な通信手段を使う、UCによるリアルタイムコミュニケーション基盤の整備に、注目が集まっています。

また、アプリケーションの領域ではSOA (Service Oriented Architecture) に基づく基幹アプリケーションの再構築の動きが進みつつあります。これらの企業内システムの進化は、言わば「企業版NGN」と言うことができます(図2)。

このように、UCの整備および基盤化と、SOA化が進展すれば、企業内の基幹アプリケーションがUC基盤を介して、容易にリアルタイムコミュニケーションを活用できるようになります。たとえば、製造ラインに何かの障害が起きた場合、それを検知したアプリケーションが、直ちに自動的に必要なメンバに対して状況を通知するとともに、対策会議を招集するようなことも可能になります。

2.4 UCで融合する企業イントラネットとNGN

今後の企業の情報システムは、UC基盤の整備によってITとネットワークの融合がさらに進み、「企業版NGN」が構築されていくこととなります。今後数年間は、最初に述べたキャリアのNGN構築と、「企業版NGN」の構築が並行して進むこととなります。キャリアNGNの特長は、オンデマンド性や安心・安全により、必要なときに必要な相手とセキュアな通信を行えることです。これらの特性から、企業におけるコミュニケーションの範囲は、イントラネットだけでなく、より広い企業間での利用や、様々な「現場」に拡大していくことが考えられます。

これをアプリケーションの観点から見ると、リアルタイムコミュニケーションを取り込み、その通信相手がどこにいても、その状況に応じた最適な手段を選んで通信する必要があります。そのためには、企業内のUC基盤がキャリアNGNの持つサービスプラットフォームとうまく連携し、アプリケーションにはネットワークの違いを意識させず、ユーザに対してシームレスなサービスを提供していかなければなりません。

このように、現在UNIVERGEソリューションとして整備が進むUCは、今後のNGN時代における企業の情報システムを大きく変える、まさに中心的役目を担うこととなります(図3)。



図2 「企業NGN」の実現に向けて

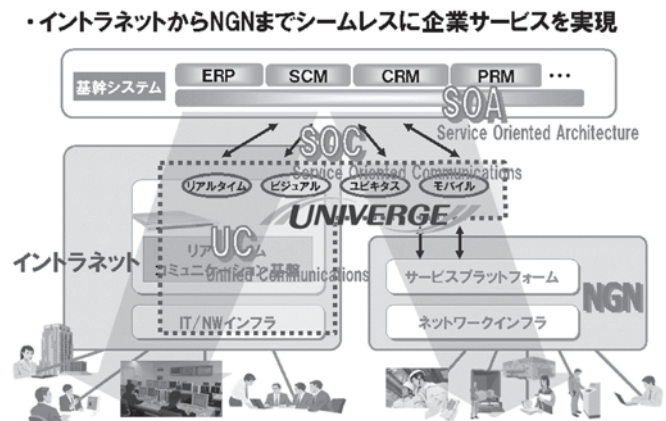


図3 NGNと融合するUNIVERGEソリューション

3. SaaSとユニファイドコミュニケーション

3.1 SaaSが目目されている背景

先に述べたように、企業の情報システムはコンピタンスにリソース投入を集中し、それ以外の機能はSaaSなどのサービスを活用することが注目されています。

SaaSは、ネットワークを利用したソフトウェア提供手法で、SOAや仮想化技術の進化で、ASP (Application Service Provider) サービスを発展させたものと位置づけられています。ASPサービスでは提供できなかった、柔軟なユーザ・カスタマイズ機能、評価環境などのサービス開発環境を組み込んだ基盤サービスが、お客様にとってのSaaSの導入ポイントになっています。加えてNGNサービスの開始によって、セキュアな広帯域ネットワークが、安価に活用できる期待が高まってきたことが、SaaS市場への注目度を高めています。

3.2 NECのSaaSへの取り組み

NECはサービス事業強化の一貫として、NECグループがすでに提供してきたSaaSサービスと基盤技術を体系化し、NECのSaaS事業戦略として、広報発表しました (2008年3月)。

NECのSaaSへの取り組みの特長は、(1)アプリケーションとプラットフォームの2領域でのサービス展開、(2)SIとサービスのハイブリット型のサービス提供、(3)お客様ニーズに適したSaaS基盤サービスの提供、(4)SaaSを活用した新ビジネス・新サービス開発支援、(5)SaaSビジネスイノベーションプログラム設立、の5つです。

(1) アプリケーションとプラットフォームのサービス展開

NECが長年培ってきた業種SIノウハウをベースにした業務向けSaaSサービスと、NECの保有するグループウェアなどの業種共通パッケージソフトのSaaSサービスを、主力アプリケーションとして強化していきます。プラットフォーム領域では、アプリケーションを保有するSaaSサービス事業者向けに、サービスデリバリに必要な機能・部品を、基盤サービスとして提供します (図4)。

(2) SIとサービスのハイブリット型のサービス提供

中堅企業・大企業のお客様向けには、SaaSサービスを核とした業種ソリューション提供をきっかけにして、基幹システムとの連携SIサービスを提供します。具体的には、NEC

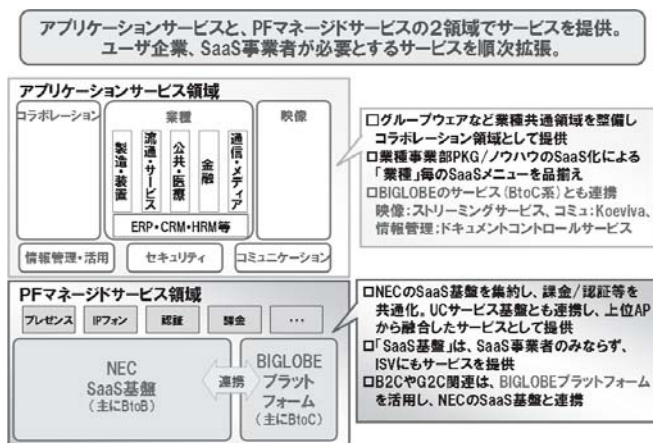


図4 アプリケーションとプラットフォーム

が保有する基幹システムやサービス間連携の、(a)開発ガイド・フレームワーク、(b)システム連携部品、(c)サービスマッシュアップガイド、(e)実証例を整備し、SaaSサービスと既存システムのシームレス連携を支援します。

(3) お客様ニーズに適したSaaS基盤サービスの提供

様々なお客様のニーズに対応した、基盤サービスを提供します。個人のお客様にサービスを展開されているBtoC事業者向けには、BIGLOBEの基盤とノウハウを活用した基盤サービスを提供します。また、中堅企業・大企業の情報システム部向けには、開発環境や部品が充実した、BtoB用途に柔軟性の高いNECの基盤サービスを提供します。BtoCとBtoBの融合した用途には、2つの基盤サービスを連携して、用途に最適化してサービスを提供します (図5)。

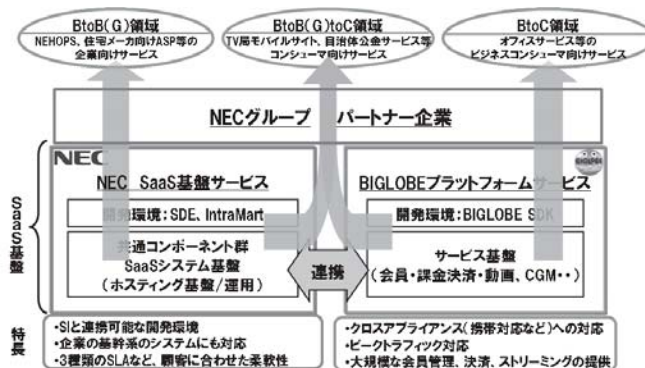


図5 SaaS基盤サービス

(4) SaaSを活用した新ビジネス・新サービス開発支援

お客様やパートナー企業様が開発中の新ビジネス・新サービスに対し、SaaS基盤サービスやサービス部品を活用した、試行的なサービスをご提供します。新ビジネスの開発コスト低減と実現スピードの短縮により、新ビジネスの創出を促進します。サービスの本格展開の際には、サービスリソースのスケールアップや、専用のサービスプラットフォーム構築をご提案することが可能です。システムの支援だけでなく、事業企画コンサルティングやアプリケーション設計支援などのメニューも整備し、企画・設計面での効率化・短縮化をご支援するサービスを提供します。

(5) SaaSビジネスイノベーションプログラム設立

お客様が求める多様なニーズに対応するため、NECは「SaaSビジネスイノベーションプログラム」を設立しました。アプリケーション、プラットフォーム、SIの3分野でパートナー様を集め、パートナー様との協業・共創によって、SaaSサービスと周辺サービスの品揃えを拡充します。パートナー様が保有するアプリケーションのSaaSへの移行や共通フレームワークの採用を促進し、お客様に提供するアプリケーションの操作性や、システム連携などの共通化を促進します。

4. SaaSで加速するユニファイドコミュニケーション

現在、業種アプリケーションやグループウェアなど、業種共通パッケージ中心で活性化しているSaaSですが、UC領域でもSaaS提供サービスの拡充が期待されています。今までインターネット利用時の通信品質、専用線利用時のコストなどで制約があった、電話・テレビ会議・資料共有などのリアルタイムコミュニケーションツールが、キャリアNGNや「企業版NGN」の整備により、SaaSでも快適な利用が可能になってくるためです。企業のUCシステムにおいても、コンピタンス業務とそれ以外の業務をSI+サービスによって使い分け、開発・運用のコストを含めたシステム最適化が進んでいくと予想されます。

SOAに基づく部品化によって、企業固有の業務アプリケーションに、SaaSを用いて調達したUCアプリケーション・部品を統合し、業務プロセスに迅速なコミュニケーション手段を組み込むことも容易になります。たとえば、業務上のコミュニケーションが多量に発生するCRM (Customer Relationship

Management) では、SaaSアプリケーションから、データ条件や状況に応じてIMや電話を使って担当者呼び出すようなカスタマイズが可能になります。

NECでは、UCアプリケーションのSaaS化を進めていくとともに、業務プロセス・利用シーンごとに必要とされるSaaSアプリケーション向けの、UCアプリケーション・UC基盤部品もサービス提供していく予定です。

5. まとめ

NGNの普及により、インターネット・企業イントラネットでは難しかった、リアルタイムコミュニケーションを活用したシステムが、容易に実現できるようになります。さらに、キャリアやサービス事業者のSaaS提供は、SaaSと自社システムを組み合わせた最適な企業システムを構築可能とします。

このようにNGN・SaaSの普及・浸透に後押しされ、NECのユニファイドコミュニケーションは、すべての現場に広がるユビキタスな企業システムを具現化していきます。

執筆者プロフィール

平田 英之
エンタープライズソリューション事業本部
UNIVERGEソリューション推進本部
本部長

今井 恵一
企業ソリューション企画本部
エグゼクティブエキスパート

野口 誠
企業ソリューション企画本部
統括マネージャー

浅野 友彦
企業ソリューション企画本部
シニアエキスパート